

平成28年度 施策評価表

	課・グループ名	生涯学習課社会教育グループ
作成年月日：平成29年10月13日		

施策名	③読書活動の充実 3-5-③		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり	(5) ふるさとの記憶を伝える芸術・文化活動の推進	③読書活動の充実
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> ●読み聞かせグループとの事業連携を深め、既存施設の有効利用を促進し、読書する機会や環境の充実に努めます。 ●学校との連携をより深め、子どもたちが読書に楽しむための環境や地域の読書環境の充実に図ります。 		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> ●本町の読書活動は、生涯学習センター図書室を拠点として、読み聞かせサークルや学校、関係施設との連携により読み聞かせや巡回文庫などの事業を実施しています。 ●読書活動を充実する上で、蔵書や拠点となる施設の整備が求められています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●豊かな人間性を育むため、本に親しむ機会の充実や図書館機能を備えた施設の整備が必要です。 ●学校や地域における読書に親しむための環境を整備することが必要です。 	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況

① 成果指標	設定の意図	まちづくりの成果指標名	数値化	
	生涯学習の拠点である生涯学習センター図書室において、新刊図書の利用促進を図ることにより、町民が読書に親しむ機会を与える。	成果指標 (総合計画・施策評価)	○	可能
		A 図書室蔵書数		不可能
		B 図書室利用者数		未計測
		C 図書室貸出冊数		未計測
		代替指標 ※成果指標がない場合		指標の設定
			可能 不可能	

※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。

②指標データ	単位	過年度実績			評価年度 H28	目標年度 H28	達成率増減の理由
		H25	H26	H27			
A目標	冊	24,000	30,000	35,000	40,000	40,000	購入や寄贈により、蔵書数が増えた。
A実績	冊	29,841	27,721	35,746	41,918	41,918	
A達成率	%	124.3	92.4	102.1	104.8	104.8	
B目標	人	7,000	7,000	7,000	7,500	7,500	前年度はオープン初年度ということもあり、利用者が増加した。本年度については、利用者に対するサービスを充実したこともあり、大幅も減少もなく推移している。
B実績	人	5,614	4,098	13,722	12,816	12,816	
B達成率	%	80.2	58.6	196.0	170.9	170.9	
C目標	冊	18,000	22,000	26,000	30,000	30,000	蔵書冊数の増やサービスの充実により貸出冊数を維持している。
C実績	冊	14,437	10,565	30,945	30,982	30,982	
C達成率	%	80.2	48.0	119.0	103.3	103.3	

評価視点	評価結果					理由、課題・問題点
③施策の達成状況	A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)				施策の 達成度	検索システムや夜間開館など利用者へのサービスの向上に努めたことにより目標を達成している。
	B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)					
	C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)				A	
	D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)					

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類

【必要性】事務事業の必要性

【妥当性】町の関与の妥当性

- (1) 自主事業(自主)
- (2) 施設管理事業(施管)
- (3) 経常的事務(経常)
- (4) ハード事業(ハード)

- (1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの
- (2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの
- (3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの

- (1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
- (2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
- (3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業

①事務事業評価結果

事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H28)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>
					目標	単位					H28実績	H29予算	
					実績								
1	図書室活動事業	(1)	生涯学習課	①利用者数	①名	・生涯学習センター図書室の運営 ・読み聞かせサークルによる図書室読み聞かせ事業の実施 ・図書室の蔵書の配本	Ⅱ	Ⅰ	1	13,477	現状のまま継続	高い	
				②貸出冊数	②冊					11,099			
			③図書室読み聞かせ延べ参加者数	③回									
			④リサイクルブックフェア利用冊数	④冊									
			⑤リサイクルブックフェア来場者数	⑤冊									
2													
3													

年度別施策全体の事業費合計(千円)	
H28事業費	13,477
H29予算	11,099

②H29に実施した新規事務事業

	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H29予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	読書活動の活性化を図るため、拠点となる図書室の充実や各種事業を実施することは必要である。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
	事業構成の妥当性	A

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)

①総合評価 (今後の展開、事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号					平成29年度以降の予算の方向性	
			A						
			B	1					拡大
			C						○ 維持
			D						縮小